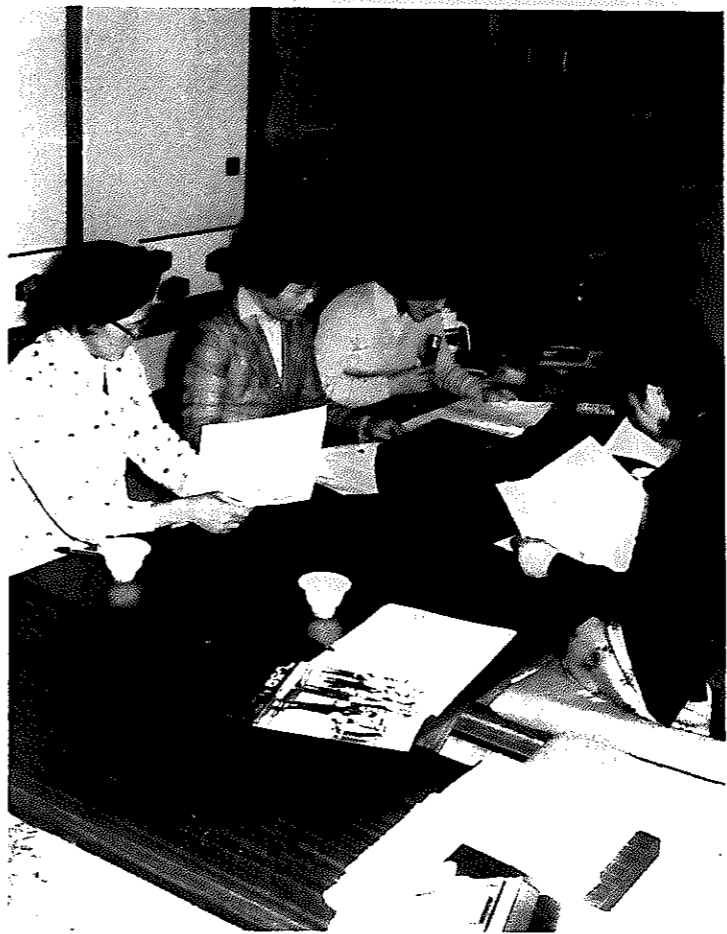


私たちにもお手伝いさせてください

広がるボランティアの輪

市内でもボランティア活動の輪が広がっています。一人の点字ボランティアが、目の不自由な人に「点字広報」を届け、その人たちが大変喜ばれています。また、六月からは朗読ボランティアが録音する「声の広報」の貸し出しも行います。いま芽生えた小さな灯が、やがて大きな灯となり、目の見えない人の行く手を照らしてくれることでしょう。

朗読の練習をするボランティアたち。「声の広報」は六月から貸し出しします



ボランティア活動とは

あなたのランプの灯をもう少し高く
かかげてください
見えない人びとの
行く手を照らすために

生後間もなく熱病におかれ、目も耳も口も不自由という三重苦を背負いながらなお、すぐれた社会事業家としての一生を終えたアメリカのヘレン・ケラー女史はこう書き残しています。その灯が、どんなにささやか

声の広報を貸し出します

全国で三十三万人を超える目の不自由な人がいます。市内でも、視覚障害者手帳を持っている人は百二十人を数えます。この人たちにも、市のできごと

委員会の設置、重度身体障害者に日常生活用具の給付を行うなど、心身障害者福祉の充実強化に力をそいでいます。目が不自由な人に「声の広報」を貸し出し、その灯が、その人たちの行く手を照らすのにも一つです。

でも、小さくてもいいのです。一人ひとりが「ランプの灯」に育っていくことがボランティアへの第一歩だといえましょう。ボランティアという言葉には「自ら進んである任務につくことを申し出る人。有志」という意味があります。つまり、自ら進んで何かのために、報酬を期待しないで何かをする——これがボランティア活動です。

なにか社会の役に立つことをしたい——ボランティア活動に参加したいが、家をあげるほどの時間はないし……こういう方におすすみたいのが、家庭でできるボランティア活動です。では、家庭の中でどんな活動ができるのか、そのいくつかを紹介しましょう。

収集活動

まず、収集ボランティア活動があります。古切手や一円玉、ライタースクーポン、不用品などを集めるのです。

これらは、社会福祉協議会を通じて施設や恵まれない人におくられます。

なかでも古切手は、切手商に買い取ってもらい、その代金は世界の恵まれない子どもたちのために役立てられます。たとえば、とくに結核患者の多いヒマラヤ地方の子どもたちにとっては、予防に欠かせないBCGの注射代になったりします。

お子さんと一緒に切手の収集をしなから、こうした家庭での活動が海を越えて世界中の人々の役に立つことを話し合うのも、子どもの視野を広げる上でよいことでしょう。

製作活動

福祉施設などに入っている子どもや老人のために、慰問品などをつくる製作ボランティア活動も、家庭でできるものの一つで、おむつやねまきなどを作ったりします。

また、近所の人たちと古着などを集め、洗たくして、ほつれをつくらしたり、作り直したりします。手芸の得意な人は、小さなバッグなどの小物類をつくるのもよいでしょう。

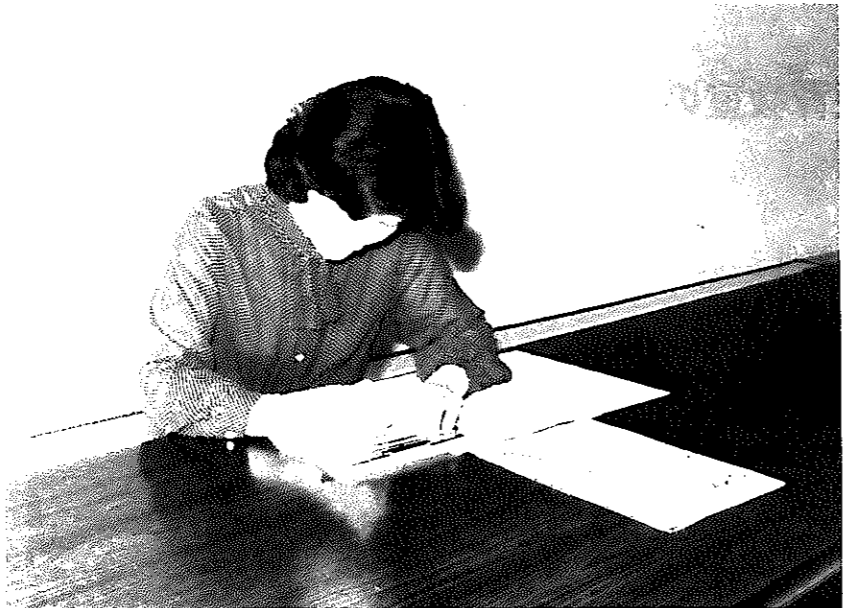
そのほかの活動

そのほか、家庭でできる活動としては、電話相手や手紙のやりとりをする友愛活動、施設の児童を家庭に招く家庭開放などがあります。

こうしたボランティア活動を長続きさせるためには、自分の生活のリズムをこわさない範囲で、ムリなくやれることから手がけることが大切です。

また、自分の趣味などを生かして、楽しみながらできるものを選ぶことも、長続きさせる一つの方法です。

目の不自由な人にも市の情報をと、「点字広報」を打つ笠原さん



ボランティアの声



笠原信恵さん (目の出町)

点字を習いはじめて、まだ半年余りです。まだまだ不十分な点字広報ですが、それを楽しみに待って、読んでくれる人がいると思うと、とっってもやりがいがあります。



岡村美園さん (朝捲)

少しでも社会のために役立てばと参加しました。目が不自由な人に「声のテープ」を吹き込んでやり、楽しみを分けてあげたいです。また、心のつながりももてると思っています。



小池由利栄さん (犬塚新田)

サリドマイドの特集をしたテレビを見て、体が不自由な人もみんなと一緒にすごしたいのだなあと思っただけです。私たちの朗読活動が、少しでも盲人の光になればと思っています。



杉崎 操さん (新潟市)

白根で、朗読ボランティアが集まったことは、目の不自由な人たちにとって良いことだと思います。活動を長く続けていくには、ボランティア精神を持ち続けることが大切です。

ために役立つなら」と十二人の人たちが申し出があり、朗読ボランティア「ひばり会」が誕生しました。現在、吹き込みを間近かにひかえ、新潟市から講師の杉崎 操さんを招いて朗読のしかたなどの練習を行っています。

ひばり会が録音する「声の広報」は、六月一日から貸し出し予定です。この「声の広報」は、目が不自由な人のほか、寝たきりで広報紙を読みたくても読めない、また家族の方がいそがしくて読んであげられないという人に貸し出します。

点字広報もお届けしています

「点字広報」を打つ点字ボランティアも、すでに活動しています。この人は、目の出町の笠原信恵さんです。

「点字広報」を打つ点字ボランティアも、すでに活動しています。目が不自由な人たちの間で、点字の広報がほしいという人がいたので、十二月の広報から点字版ははじめました。現在、「点字広報」は五人の方に届けられ

「声の広報」を借りたい人は、福祉事務所社会福祉係(☎02-11-248)までご連絡ください。申し込まれた人には郵送します。次号の広報を録音する関係もありますので、聞き終わったらすぐに福祉事務所までお返しください。送料は、すべて無料です。

また、目の不自由な人は、一般図書の特集も貸し出しします。読みたい本があれば、その本を福祉事務所まで送ってください。ひばり会が録音し、テープを送ります。

大変喜ばれています。その中の一人、新飯田の長沢みなさんから、笠原さんに寄せられた手紙の一部を紹介しましょう。

「点字広報を毎月送ってらうってありがとうございます。障害者のために尽くされてくださる方々に感謝しています。おかげで、市のいろいろな情報を知ることができ、白根市に対する視野が広くなりました。」

でも、笠原さんにも悩みがあります。それは、一人で点字するので毎号一部しかつけれないため、五人の方で回覧しているそうです。「回覧だと、時間がかかってしまいます。もっと早く市の情報を届けてあげたい。そのためにも、点字広報を打つ仲間がほしい」といいます。

目が不自由で、点字の読める人のために広報を点訳してあげたい、また点字を習ってみたい人は、点字サークルの夏川久美子さん(桜町・☎02-210-1)へご連絡ください。